

## C-130の飛行を支える整備群の空兵(1) *374th maintainers keep C-130s flying*

August 3, 2022

By Machiko Arita  
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)7月26日、横田基地のフライトラインに駐機する第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。

横田基地は米空軍の平時および有事における西太平洋の主要な空輸拠点であり、戦術空地作戦、空中投下、航空医療搬送、特殊作戦、高官輸送などの任務を担っている。



1

(写真2)C-130Jスーパーハーキュリーズのフライトデータレコーダーに携帯インターフェース装置を取り付ける第374航空機整備中隊C-130J計器・飛行制御システム職人のダニエル・ドリュエーン等空兵。

計器・飛行制御システムの専門官は、あらゆる任務で航空機のシステムが適切に動作するよう基準を保つ大切な役割を担っている。



2

(写真3)C-130Jスーパーハーキュリーズにデータ転送と診断システムのセットアップを行う第374航空機整備中隊C-130J計器・飛行制御システム職人のネイサン・コリンズ上級空兵。



3

## C-130の飛行を支える整備群の空兵(2) 374th maintainers keep C-130s flying

August 3, 2022

By Machiko Arita  
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4)横田基地で7月26日、ナビゲーション装置が正常に作動していることを確認する第374航空機整備中隊の統合通信・ナビゲーション・対電子対策職人のアイザック・クーパー上級空兵。

統合通信・ナビゲーション・対電子対策専門官は、航空機の統合電子工学システムの点検、取り外し、設置を行う。それらのシステムには、ビデオディスプレイや電子戦システム、飛行計器、航空機衝突回避システムなどがある。



4

(写真5)航空機の準備を確実にするためにC-130Jスーパーハーキュリーズのレーダー警告受信機システムをチェックする第374航空機整備中隊統合通信・ナビゲーション・対電子対策職人ノア・クラウス等空兵(前)と同上級職人グリフィン・ボール軍曹(後)。

レーダー警告受信機が、機体に当たる高周波エネルギーを感知することで、乗員は地対空ミサイルや空対空ミサイルの標的になっているかどうか状況を把握することができる。



5

(写真6)ヘッドアップディスプレイの作動チェックを行う第374航空機整備中隊C-130J計器・飛行制御システム職人ネイサン・コリンズ上級空兵。

ヘッドアップディスプレイは、前方の視線にある小さな透明スクリーンに、主要な計器データを投影してパイロットに情報を提示する。



6